

はまY[○]U

Vol.
43
2019.冬号

白浜はまゆう病院
開院25周年記念



「開院25周年記念行事より」

耳鼻咽喉科

診療日 / 木曜日・午後
土曜日・午前(第1・3予約制)
受付時間 / 午後2時～4時半
診療時間 / 木曜日 午後2時～5時
土曜日 午前9時～12時
担当 : 保富 宗城 医師
担当医(和歌山県立医大)

眼科

診療日 / 水・金曜日 午後
受付時間 / 水曜日 午後1時半～3時半
金曜日 午後1時半～4時半
診療時間 / 水曜日 午後2時～4時半
金曜日 午後2時～5時
担当 : 田中 公子 医師
井村 良子 医師

白浜はまゆう病院は、夜間・休日を問わず
「365日・24時間の救急医療」に対応しています。



公益財団法人日本医療機能評価機構 認定施設複合病院(一般病棟・
リハビリテーション病院・慢性期病院)機能種別版機能評価項目3rdG:Ver.1.1

CONTENTS

- 理念・基本方針
公益目的事業へのご寄附のお願い… 2
- 辻本副院長就任挨拶
廣井看護部長就任挨拶…………… 3
- 新採用医師のご紹介…………… 4
- 開院25周年記念行事
(1) 記念講演
『予防できる病気～がん・季節の感染症～』… 4～5
(2) 記念行事開催を振り返って…………… 6
- 各部署から～(本館5階)のご紹介…………… 7
- 冬のインフルエンザ対策について… 8～9
- 南紀和歌山消化器講演会…………… 10
- 患者の権利・医療倫理研修…………… 10
- 管理栄養士のおすすめレシピ…………… 11

●白浜はまゆう病院 外来診療担当表



敷地内
全面 禁煙

理念

基本方針

あみだ い
ん な て
し ん が も



私たちは、地域に根ざした医療機関として、誠実さと思いやりをもって、質の高いサービスを提供し、健康・福祉のレベルの高い地域づくりに努めます。

1. 利用者の権利の尊重

私たちは、健康増進から看取りまで、利用者の皆様の気持ちや権利を大切に医療とケアを提供します。

2. 地域に開かれた存在

私たちは、24時間いつでも、誰でも、困った時は気軽に受診・相談していただける、地域に開かれた医療機関・サービス提供機関を目指します。

3. 協力と連携

私たちは、院内各職種が手を携え、地域の他機関とも協力連携し、健康増進・診断と治療・リハビリテーション・看取りまでの一貫した包括的な地域医療と福祉を提供します。

4. 利用者とのパートナーシップ

私たちは、患者・利用者の皆様と手を携え、安全で質の高い医療・ケアを提供します。

5. 事故・災害への対応

私たちは、大規模な自然災害や事故に対応できるように、普段から備えを強め、いざと言うときに頼りになる病院を目指します。

6. 質の維持と改善

私たちは、常に研修を行い、時代の水準を維持するとともに、お互いに注意し合い、サービスの質の向上に努めます。

7. 観光地の病院としての対応

私たちは、観光客の人々が安心して訪れられるよう、不慮の事故や病気に対しての診療体制を整備します。

公益目的事業へのご寄附のお願い

当法人の公益目的事業にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。皆様からの寄附金は、公益目的事業遂行のために有効に使用させていただきます。

事業目的

当法人は、白浜町及びその周辺地域の公衆衛生の向上と地域医療に関する事業を行い、もって地域住民及び観光滞在者等の健康と福祉の増進に寄与することを目的としています。

事業内容(公益目的事業)

当法人は、国立病院等の再編成計画により廃止された元国立白浜温泉病院施設を、医療施設として再利用してほしいという地域住民の願いを実現するため、白浜町はじめ民間団体等の参画により開設された法人です。

現在白浜はまゆう病院、診療所、訪問看護ステーション、骨リウマチ疾患探索研究所を運営し、予防から治療、リハビリテーション、看取りまでの医療・ケアを提供し、地域医療の向上や地域住民、観光滞在者等の健康と福祉の増進に寄与する事業を行っています。

- | | |
|---|----------------------------------|
| (1) 地域医療を主体とする病院の管理運営 | (6) 生活習慣病予防の健康診断及び健康増進並びにがん検診事業 |
| (2) 救急医療の実施 | (7) 無医地区及びへき地等における在宅療養支援診療所の管理運営 |
| (3) 介護保険法による介護療養型医療施設の運営並びに居宅介護支援事業及び指定居宅サービス事業等の実施 | (8) 訪問看護ステーションの管理運営 |
| (4) 開放型病院による登録医への共同利用施設としての医療機器及び病床の提供 | (9) 医療・保健・福祉に関する調査研究並びに普及啓発 |
| (5) 温泉を活用したリハビリテーションの推進 | (10) 高齢者・障害者等の医療とケアに関する調査研究 |
| | (11) その他、この法人の目的を達成するための事業 |

税制上の優遇措置

当法人への寄附金には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除を受けることができます。(詳細は白浜はまゆう病院ホームページをご覧ください。)

寄附金の申込

白浜はまゆう病院ホームページに掲載しております寄附金申込書に必要事項をご記入の上、下記まで郵送・ファックスしてください。もしくは、下記までご連絡をお願い致します。

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1447番地 白浜はまゆう病院内
公益財団法人白浜医療福祉財団 法人事務局
TEL 0739-43-6200 / FAX 0739-43-7891

副院長就任挨拶

白浜はまゆう病院開院25年の節目となる2019年10月1日に副院長を拝命いたしました。母とも思えるこの地域の皆さんの懐の広さに惹かれて今年1月に着任した時の、昔に受けた恩を少しでも返したいという思いは変わることなく9ヶ月が過ぎました。白浜町のみなさんには、患者さんとして入院されてもこれまでの自分の経験が役に立てればとても嬉しい、と思いつつ仕事をしてきました。

副院長は院長を補佐することが役割です。わたしが副院長として補佐できることは2つあります。一つは医療の安全です。医療安全は事故やミスがおきないことが直接の目的ですが、病院職員の意識や病院内の仕組みを考えることで、より柔軟な安全を構築できるのではないかと考えています。

もう一つは医療を楽しいと思えるような意識を病院職員のみなさんに持ってもらうことです。「医療は楽しい」、それは私たちの仕事に魅力がある、ということです。もちろん私たちの仕事は患者さんが中心の仕事ですから、患者さんの行く末をみて辛いと感じることもあればしんどいと思うこともあるでしょう。しかしそれを超えるたくさんの魅力がこの病院にはあります。もしかしたら気づいていない魅力があるかも知れません。わたしはこれまでの経験を通して、そんな楽しさや魅力を伝えたいと思っています。病院職員の一人ひとりが自分の仕事に対して楽しいと思えるならば、かならず患者さんにも病院を訪れる方にも、ひいては白浜町の皆さんにもそれが伝わると信じています。

自分にできることを尽くして、少しでも皆様のお役に立てることが私の目標であり喜びであります。どうぞよろしくお願いいたします。



副院長

辻本 登志英

看護部長就任挨拶

この度、2019年10月1日より東直子看護部長の後任として、看護部長に就任いたしました、廣井啓子と申します。今回このような大役を引き継ぎ、重責に身の引き締まる思いで日々を過ごしております。私事で恐縮ですが、2004年6月にこの白浜はまゆう病院に入職しました。私自身も白浜町出身ということから、地元の病院として愛着を持って勤務してまいりました。入職翌年2005年には電子カルテが導入、2006年、2011年、2016年に病院機能評価受審、2013年には新本館の完成・移転があり、その時々その準備と運営に携わってまいりました。今年度は、11月より南館改修工事が着工となり、入院中の患者・利用者様、ご家族の方、近隣住民の皆様方には、大変ご迷惑をおかけしております。工事終了後は、今まで以上に快適で安全な療養生活を過ごしていただけますので、ご理解とご協力宜しくお願い申し上げます。また南館4階の介護療養病棟は、2020年4月より「介護医療院」という名称に変更されますが、これまでと同様、医療の必要な要介護高齢者の皆さまの療養生活施設として、長期的な医療と介護を一体的に提供いたします。

看護部は、「患者・利用者様を主体とした心のこもった看護の提供と、地域の中心的な病院として地域看護・介護との連携を図ります」という看護部の理念のもと、常に患者・利用者様やご家族の立場に立ち、職員一人ひとりが患者・利用者様の思いに寄り添う姿勢と一つ一つの看護を、知識や技術だけではなく、いかに心を込めて行えるかが大切であると考えております。外来から病棟、病棟から外来、地域へとつなぐ看護を目指し、「この病院でよかった」と言っていただけよう努力していきたいと思っております。

また看護職一人ひとりが生き生きとやりがいを感じながら看護ができる組織作りと、自分の看護観をしっかり持ち、自ら考え判断し、行動できる、自律した看護師の育成を目指し、私自身も共に成長していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



看護部長

廣井 啓子

新採用医師のご紹介



かとう かんせい
加藤 寛正 部長 内科

本年10月より白浜はまゆう病院に赴任となりました内科の加藤寛正です。
愛媛県で生まれて千葉県で育ち、大学は徳島大学医学部を卒業しました。その後徳島大学第2内科の人事で四国各県の病院に勤務し、平成15年に大学の人事を離れて和歌山市の中江病院に赴任いたしました。今回このご縁で和歌山県内の当院でお世話にならせていただくことになりました。

私の専門は消化器内科で、安全、安楽かつ正確な胃カメラ・大腸カメラを施行させていただきたいと存じています。また、消化器以外でも内科全般で幅広く、患者様の生命と健康を守るために尽力させていただきたい所存です。どうかよろしく願いいたします。



こやま
小山 あかね 医師 整形外科

この度、2019年10月1日より白浜はまゆう病院に赴任して参りました小山あかねと申します。大阪市立大学整形外科医局に在籍しており、これまで大阪の市民病院や大学病院に勤務していました。肩や腰の痛みといった日常の悩みから、外傷による怪我や骨折まで幅広く患者さんと向き合っていたらと思っています。

至らない点も多くご迷惑をおかけすることもあると思いますが、これまでの経験を活かし、また日々精進いたしますので宜しく願い申し上げます。些細なことでも気軽にご相談して頂けると幸いです。

開院25周年記念講演(辻本登志英副院長)

予防できる病気～がん・季節の感染症～

白浜はまゆう病院開院25周年を迎えるにあたり、これを記念して白浜町の皆様に講演させていただきました。このような機会を与えて下さいました公益財団法人白浜医療福祉財団理事長の井濶誠町長はじめ関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

さて、白浜町は2006年に旧日置川町と合併しました。白浜町の人口は約20年前から徐々に減少していて、年代別に人口をみると、約20年前には最も人口の多い世代は50才代前半であったのに対し、2019年には70才前後となりました。高齢化と人口減少の先駆けとなっている和歌山県の中でもより高齢化の著しい地域です。そして日本人の平均余命が男性81才、女性87才を超えていることから、わたしたちは世界でもトップクラスの長寿社会に生きていることになります。しかし、健康上の問題で日常生活を制限されることなく過ごせる期間＝健康寿命は男性がおおよそ72才、女性は75才といわれています。わたしたちは健康で長生きすることが第一の目標ですから、健康を維持するために何が必要かということを考えて、今回は予防できる病気と題して「がん」と「季節の感染症」についてお話します。

1. がん健診について

日本の人口は2004年頃から減少に転じてきました。これは死亡数が出生数を上回りだしたからです。生まれてくる子供が減少し、それを上回る速度で特に75才以上の死亡が増加していることが原因です。少子高齢化を象徴する現象であり、2018年度の死亡数は年間およそ137万人でした。死亡の原因として最も多いのは「がん」で約37万人、およそ4人に1人が死亡していることとなります。がん死亡の多い順では、男性は①肺がん②胃がん③大腸がん④膵臓がん、女性は①大腸がん②肺がん③膵臓がん④胃がんとなっています。都道府県別にがんの死亡率をみると、和歌山県は全国で上から10番目とかなり高いことがわかっています。中でも肺がん・大腸がん・肝臓がんは5番目、膵臓がんは3番目に高く、これらの対策が必要です。

がんによる死亡を少しでも減少させるために必要なのが健診です。がんは進行度によってステージ分類されていて、ステージⅠは早期がん、ステージⅣは最も進行したがんとなります。がんは早期であればあるほど予後（生存率）は良いので、早期発見が大切ということがわかります。毎年の健診を受け、がんを早期発見できれば健康寿命も長くなるというわけです。白浜町のがん検診受診率は全国平均に比べても高く、がんに対する意識が高いことがうかがえます（表1）。特に胃がん健診は14.5%、肺がん・大腸がん健診でも11%台とかなり高い受診率です。とはいっても、健診を受ける人は5人から10人に1人と少なく、まだまだ受診率は上げる必要があります。白浜町の住民の皆さんには「がん」一つをとってみても、健診が健康寿命を延ばすということを改めて知って頂きたいと思います。そして「まず健診を!」「毎年健診を!」を合い言葉に、是非はまゆう病院を利用していただければ、病院職員一同できるかぎりご要望にお応えいたします。

2. 季節の感染症について

今回は予防できる季節の感染症として、インフルエンザウイルスと肺炎球菌についてお話します。どちらも予防接種をおこなうことで罹患（病気にかかること）せずに済んだり、罹患しても多くの場合軽くすみます。

この予防接種に使う薬品を「ワクチン」といいます。これを注射することで、体の中に病原菌に対する抗体（抵抗性）を作ります。インフルエンザワクチンも肺炎球菌ワクチンも「不活化ワクチン」というもので、注射による副作用は少なく発熱さえなければ多くの方に接種可能です。ただし、抗体は永久に体の中に存在するわけではなく、一定期間しか効果がありません。このためインフルエンザは毎年、肺炎球菌ワクチンはおおよそ5年に1回の予防接種が必要となります。

白浜町ではインフルエンザワクチンは、65才以上の方は自己負担金1500円でどなたでも受けることができます。受けられる期間は10月1日～翌年1月31日です。また、肺炎球菌ワクチンは、65才以上の対象の方は季節を問わず自己負担金3000円で受けることができます。

インフルエンザも肺炎球菌も、生活習慣病を十分治療していない方に感染するとより重症になります。喫煙習慣や糖尿病、高血圧症などの「生活習慣病」は、感染症に弱くなること、また心筋梗塞や脳梗塞、腎臓病などをおこしやすいことを考えれば、これらも健診で早くつけてきちんと治療できるようにしたいものです。

今回は健診の重要性について、「予防」という側から話をいたしました。

■表1 和歌山県がん検診受診率(2018年)

(単位: %)					
	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
全 国	8.4	7.4	8.4	16.3	17.4
和歌山	11.5	9.9	10.1	20.9	20.6

白 浜 14.54 11.74 11.54 2.24 18.14

開院25周年記念フェスタを開催しました!

今回の開院25周年記念フェスタは楽しんでいただけましたでしょうか。普段から病院を利用している地域の皆様に感謝をこめて、今回のイベントを企画させていただきました。

健康の啓発や病院機能の紹介、そして地域の皆様に楽しんでもらえるよう“お祭り”のようなイベントを用意させていただきました。



メインイベントとして、地域の皆様に健康について考えて頂けるよう、辻本副院長が予防できる病気～がん・季節の感染症～という演題で講演を行いました。

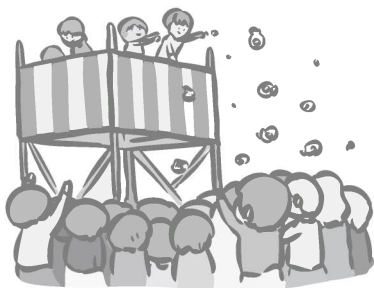
他にもスタンプラリー、子供向けの白衣体験、リハビリや手指衛生について考えてもらう体験コーナー、当院のDMATの紹介や介護用品の紹介等を行いました。

白浜町消防本部様にご協力を頂き、はしご車の展示や煙体験等を行っていただいた他、白浜町の有志の方々による演奏で記念フェスタを盛り上げていただきました。



イベントの最後には谷口院長、辻本副院長、廣井看護部長がお餅まきを行いました。

想像以上のご参加を頂いたためお餅の量が少なかったですが、次の機会では沢山のお餅とお菓子をご用意します。どうか楽しみにしておいてください。



この度は開院25周年記念フェスタにたくさんのご参加を頂き、本当にありがとうございました。

これからも地域に根差した医療機関として、皆様に頼りにされるよう、職員一同努力してまいります。

各部署から

～本館5階のご紹介～



白浜はまゆう病院には本館と南館があり、一般病棟は本館の4階と5階です。今回は本館5階病棟を紹介いたします。

本館5階病棟は、消化器外科・乳腺外科・泌尿器科・内科の混合病棟です。消化器外科は、胃・膵臓・大腸等の悪性腫瘍や、胆石症・鼠経ヘルニア等、乳腺外科は乳癌、泌尿器科は前立腺や膀胱・尿管の病気の患者さまが入院しています。入院される患者さまには手術、化学療法（抗がん剤治療）や急性期医療から終末期医療まで、様々な治療に取り組んでいます。



私達の病棟は平均在院日数がおよそ17日と短く、入退院の多い病棟です。このため、消化器内科・外科、乳腺外科、泌尿器科の検査や手術などに対してはクリニカルパスという方法を取り入れています。クリニカルパスとは、入院から退院までに行う手術・検査・処置等を「病気」や「治療」毎に計画するものです。こうすることで入院前から退院までの予定を医療者だけではなく、患者さまにも知っていただくことで自分の病気についてよりよく知り、また不安の解消にもつながるものです。

入院患者さまが少しでも早く良くなっていただく為にはチーム医療が大切です。私たちは、医師・リハビリスタッフ・臨床工学技士・管理栄養士・薬剤師・退院支援看護師等と連携し、チーム医療にも積極的に取り組んでいます。

緊急入院も多く、忙しい病棟ですがいつも笑顔を大切にし、思いやりをもって、安心して治療を受けられる環境を提供できるようスタッフ全員で取り組んでいます。

そして、専門的な知識とスキルの向上に努め、患者さま・家族の思いを大切にして、患者さまに寄り添う看護を目指し、「白浜はまゆう病院に入院してよかった」と思ってもらえるような看護を目指しています。

乳癌化学療法（アンスラサイクリン系）を受けられる患者さまへ				主治医
経過	入院日	入院2～3日目		
安静	・特に制限はありません。	・特に制限はありません。		
食事	・特に制限はありません。	・特に制限はありません。	主治医・看護師がそばにいますので、心配なことがありましたらお知らせください。	
清潔	・入浴可能です。	・入浴可能です。		
処置/点滴	・副作用を抑える点滴をした後、化学療法を開始します。 	・化学療法終了24時間後白血球（好中球）の減少を予防する注射を行います。 ・先生の診察で問題なければ退院となります。 		
薬	・化学療法開始前に吐き気止めを内服していただきます。	・化学療法の副作用を予防する薬を内服していただきます。 ・発熱がある場合は抗生物質の内服をしていただきます。		
説明指導	・看護師より入院生活についての説明をさせていただきます。 ・化学療法中、化学療法後は水分を多めに摂取するようにしてください。 	・主治医より退院後の説明をさせていただきます。 ★ご精算は退院当日に病棟事務員からお部屋に請求書をお持ちしますのでお持ちください。 お支払は1階受付になります。		

★この計画表は状況に応じて変更となる事がありますのであらかじめ御了承下さい。（2019年10月改訂）

冬のインフルエンザ対策について

近年、季節性インフルエンザの流行はA型とB型ウイルスの混合流行の傾向が多く、わが国でも2015/2016シーズンからA型2種類とB型2種類の4価ワクチンが使用されています。しかしながら、昨シーズンは現行の監視体制である感染症法施行開始以降最高の、累積推計受診患者数1,200.5万人でした。流行のピークは1月、2月です。

ワクチンに使用されるウイルス株は国立感染症研究所でWHOの推奨株を参考にしながら、国内での流行株の解析情報、国民の血清抗体保有状況などから、有効性のみならず安定供給面も含めて最適な株が選定されるプロセスになっています。ここで特に気になるのはワクチンの有効性についてではないでしょうか。

ワクチンの有効性に関しては多くの調査研究が行われていますが、調査する対象（年齢や免疫応答など）・調査地域・調査時期、流行株とワクチン株の抗原性の一致度など種々の条件により結果が異なります。厚生労働省の資料によると、「65歳以上の高齢者福祉施設に入所している高齢者については34～55%の発病を阻止し、82%の死亡を阻止する効果があった」、「乳幼児に関しては報告によって多少幅がありますが、概ね20～60%の発病防止効果があった」と報告されています。ここで注意が必要なのはワクチンの有効率の解釈ですが、よく誤解があるので詳しく説明しておきます。例えば、

(i) ワクチンを接種しなかった方100人のうち30人が発病した→ $30/100 \times 100 = 30\%$ の発病率

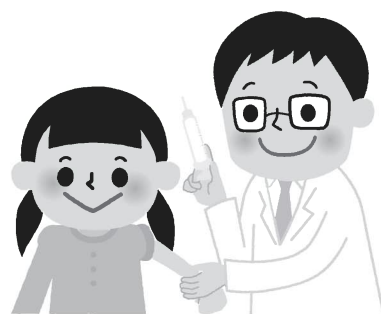
(ii) ワクチンを接種した方200人のうち24人が発病した→ $24/200 \times 100 = 12\%$ の発病率

(i)、(ii)より、ワクチン有効率は $\{(30-12)/30\} \times 100 = 60\%$

つまり接種した人は接種しなかった人に比べて相対的に60%発病率が減少しています、という意味になります。よく、今年ワクチンを接種したのにインフルエンザに罹ったわーと不満を言われている方をお見かけすることがありますが、あくまで接種しない場合に比べて相対的に発病リスクが下がりますよということなので、発病自体は各個人の基礎疾患や免疫状態に左右されますし、また近年では、ワクチン株の製造過程において発育鶏卵中での増殖中に、元の野生株と比べて抗原性が変化してしまうことも報告されていて、ワクチンを接種したから万全というわけではないのです。しかし、接種により完全な予防は難しくとも一定の重症化や死亡の予防効果はあること、また接種可能な方が接種することにより、接種の効果が比較的低いとされる乳幼児や医学的理由で接種できない方などを間接的に守る効果もあるので、接種することのメリットは大きいと思われます。インフルエンザワクチンは不活化ワクチンであり生ワクチンに比べて効果の持続期間は短く、有効性が持続する期間は約5か月とされているので、毎年接種することが勧められます。



泌尿器科医長・
感染対策委員長
木村 泰典



次に実際の感染対策についてです。環境表面にいる病原微生物を全て殺滅することはそもそも不可能なわけですから、感染対策の基本は体内への侵入経路を遮断することです。インフルエンザの場合は手指を介した接触感染と、咳やくしゃみに含まれる飛沫といわれる粒子に直接暴露される飛沫感染です。麻疹などのように空気感染することはありません。環境をどうこうすることを悩むのではなく、体内に侵入してくる経路を遮断して、感染の成立を防ぐことを考えればよいということになります。

飛沫とは咳、くしゃみ、あるいはしゃべっているときに口から撒き散らされる粒子（直径 $5\mu\text{m}$ 以上）で、飛沫は水分を含んでいるので 1m くらいしか飛びません。インフルエンザなどいわゆるウイルス性のかぜは、ほとんどがこの飛沫感染を感染経路としますが、直接飛沫を浴びないよう 1.5m 以上距離をとったり、マスクを装着することで十分に防ぐことができます。これを飛沫予防策と言います。外部からの防御かつ自らの飛沫の撒き散らしを防ぐという意味で、インフルエンザに限らず、咳が出るすべての人は、マスク装着（*）を行うべき（咳エチケット）です。お互いに声をかけ合うようにしましょう。（*マスク装着時は鼻までしっかりと覆わないと意味がありませんので注意してください。）

接触感染については、例えばインフルエンザを発症している患者さんが、テーブルの上で咳をします。テーブルは咳で汚染されるわけですが、一説にはインフルエンザウイルスは環境中で48時間は感染力を持ったまま生きているという報告もあるので、このテーブルを手で触り、その汚染された手で、無意識のうちに目をこすったり、鼻を触ったり、口を触ったりすると、感染するかもしれません。対策としては、石鹸＋流水で手洗いをするか、最近ではスーパーマーケットの入り口にも設置されるようになってきていますが、速乾性擦式アルコール製剤を手で擦り込むことが有効です。アルコールや石鹸は、脂溶性（脂質を溶かす作用）でウイルスの外を覆っている殻を破壊してくれます。インフルエンザウイルスはRNAという一本鎖の核酸を持つ、構造的に弱いウイルスですので、外側を覆っている殻さえ破壊すれば、容易に失活します。胃腸炎を引き起こすノロウイルスの場合でも、感染経路は接触→経口ですから、流水と石鹸を使った手洗いをして、嘔吐物や便を処理する際にはマスクや手袋をして直接触れないようにして、経口からの侵入を遮断するように予防策（これを接触予防策と言います）をとればよいわけです。

これからの季節、ご家族が発病してどう対応すればよいのかという場面にも出くわすかもしれません。飛沫、接触感染が感染経路だから侵入経路を遮断すべく、サージカルマスクを装着して、少し距離をとって直接飛沫を浴びないようにする、手指衛生をしっかり行う、で基本大丈夫です。ただし、発病までの潜伏期間が1～3日あるので、その間は職場ではマスクを装着して勤務し、手指衛生を心がけ、症状が出現した場合には速やかに就業を控えるようにされるべきと思います。確定診断がつくまでに単なる風邪として予防策がおろそかになっていた結果、職場・施設内で蔓延してしまっているという例が多く見られます。

最後にまとめとなりますが、感染対策で最も重要なことは「感染経路を遮断すること」です。そしてその「感染経路の遮断」において最も有効で簡単なことは手指衛生（手洗い）です。当院では感染対策のスローガンとして「洗手必勝」を掲げており、それは「先に手洗いを励行すれば、感染対策に必ず勝利する」という意味で、入院患者さんに限らず、お見舞いに来院される方にもご協力をお願いしていることであります。皆さんも積極的に感染経路を遮断する予防策を行い、寒い冬の時期を健やかに過ごせるようにしましょう。

第1回はまゆう講演会 南紀和歌山消化器講演会を開催

2019年11月7日(木)18時20分より当院地下会議室にて、地域の医師をはじめとする医療職の方を対象に、第1回はまゆう講演会南紀和歌山消化器講演会を開催しました。

講師として、自治医科大学内科学講座主任教授 山本博徳先生をお招きして『新たなアイデアはニーズから～ダブルバルーン、ESD開発昔話～』というテーマで講演いただきました。山本博徳先生は、当院の辻本登志英副院長の同級生というご縁により栃木県よりお越しいただきました。



講師 自治医科大学内科学講座主任教授
山本博徳先生

まず、新しい発想はこれまでの知識を点として、それらを繋げることで生まれることが紹介されました。以前は、小腸に内視鏡を到達させようとしても臓器の形状により到達させることが困難でした。講師の山本博徳教授は、何とかこの困難を克服しようとする分野の研究に取組み、ダブルバルーン機能を備えた内視鏡の開発を先導、成功されました。この内視鏡を駆使することで、患部及びその周辺の細部まで適切に処置することができるようになり、体に負担の大きい開腹手術を避け、手術の翌日には退院が可能となるケースなども紹介されました。

山本博徳先生は、この手技をすでに70か国以上に指導、普及されています。

講演後には質疑応答の時間があり、受講生として参加された南紀和歌山医療センターの先生方をはじめ院内外の先生方から質問が寄せられました。講師の山本先生からは、これまでのご経験に基づく貴重なお話やアドバイスもあり活発な意見交換が行われました。

今後も同様の講演会を開催いたしますので、地域の医療職の皆様、お気軽にご出席ください。



講演後の質疑応答

患者の権利・医療倫理研修会を開催しました



講師 紀南病院がん性疼痛看護認定看護師
北條理恵先生

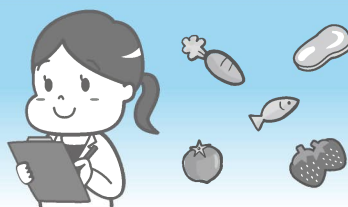
2019年11月21日(木)、教育委員会主催により、全職種を対象とした患者の権利・医療倫理研修会を開催しました。講師として紀南病院がん性疼痛看護認定看護師の北條理恵先生をお招きして「がん看護における看護倫理」をテーマに講演いただきました。看護師だけでなく管理栄養士やセラピスト、介護福祉士等多くの職種の職員が聴講しました。

がん患者様と看護を通じた関係において「これでいいのか。」「どうしてあげたらいいのか。」「患者様がもう少し楽に過ごせる方法はないのか。」といった倫理的問題について看護師の果たすべき責任は「看護者の倫理綱領」に定められており、日常的な倫理的問題に気づき、それに対処していくうえでの指針となることが紹介されました。

また、自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、医療ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する取り組みとして、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)が紹介されました。本人の同意のもと家族やその周囲の友人等とともに日頃から人生の最終段階で望む医療やケアについて意向を話し合っておくことで、その情報をもとに看護職は患者の価値観やニーズを理解することができ、患者にとっての最善を考えることができるということです。

看護職は、患者が十分に理解したうえで医療を選択し決定できるような十分な情報を丁寧に与えることが大切であり、患者・家族の権利を尊重するため日常的な支援を通じて積極的に働きかけることが重要であると講演されました。

一週間の バランス献立

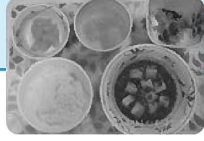


食養科 管理栄養士
古井 啓詞

管理栄養士が伝えたい日々の食事のポイントについてご紹介いたします。食事の基本は主食・主菜・副菜をバランス良く組み合わせることです。1週間を目安に色んな食材で、調理法・味つけ等を工夫しながら食事を楽しんでみてください。組み合わせることで様々な種類の栄養素を摂ることができます。

カルシウムについて

- ・骨や歯をつくる栄養素。
- ・筋肉や神経などの働きを正常に保つためにも重要な役割を担っています。
- ・牛乳、小魚、海藻、大豆製品、緑黄色野菜に含まれています。

	朝	昼	夕
日	米飯・味付海苔 煮奴・味噌汁 牛乳・漬物 	米飯・鰯の黄身焼き・卵の花 ほうれん草のお浸し・漬物 肉・卵・魚・豆腐のうちどれか毎食1回は摂りましょう。焼く・蒸す・炒める・揚げるなど調理方法を工夫しましょう。 	米飯 豚肉八幡巻き ごまドレサラダ 吸物・漬物 
月	ロールパン・ジャム ポテトサラダ 果物・牛乳 	米飯・松風焼き じゃがいも土佐煮 もやしナムル・漬物	米飯 さんまの塩焼き・豆腐のきのこあんかけ 金時煮豆・漬物 揚げ物は手軽にエネルギーアップできますが、摂り過ぎに注意しましょう。
火	米飯・ふりかけ・絹揚げ煮物 味噌汁・牛乳 カルシウムを多く含む乳製品は1日1回を目安に摂りましょう。	米飯・鶏肉のピカタ ピーマン炒め煮・ミニそば・漬物 汁物は、塩分を多く含みます。具たくさんにすることで減塩につながります。	米飯・かき揚げ かぼちゃ含め煮 白菜と春菊の海苔和え・漬物
水	米飯・味付海苔・小松菜の煮浸し 味噌汁・牛乳 	米飯・ブリ大根 こんにゃくきんぴら コーンサラダ・果物	米飯・チキン南蛮・白菜のしらす和え 具沢山のお味噌汁・漬物 
木	ロールパン・ジャム ほうれん草のソテー 果物・牛乳	ミートソーススパゲティ 蒸し鶏中華風サラダ 水羊羹 	米飯・麻婆豆腐 さつま芋レモン煮・きゅうりの酢の物 果物 薬味や香辛料、お酢や柑桔など上手に利用して減塩に努めましょう。
金	米飯 味付海苔・だし巻き卵 味噌汁・牛乳	米飯・すき焼き風煮・なべしぎ 和風サラダ・漬物 漬物は、塩分が多く含まれます。摂り過ぎに注意しましょう。	米飯・サバの生姜煮 長芋煮物・もずく三杯酢・果物
土	レーズンパン 野菜スープ・果物・牛乳  果物にはビタミンCが多く含まれており、免疫力を高める効果があり、風邪予防につながります。毎日適量摂りましょう。	米飯・鰯の香り煮 南瓜そぼろ煮・春雨サラダ・漬物	米飯・スペイン風オムレツ 五目煮豆・春菊ごま和え・漬物

白浜はまゆう病院診療担当表

電話 **43-7880**(受付) **43-6200**(代表)

診 療 科			月	火	水	木	金	土
内 科	内科1(初診)	午前	辻本 登志英	加藤 寛正	岡 宏保	竹井 陽	伊藤 揚荘	高村 竜一郎
		午後						
	内科2(再診)	午前	岡 宏保	伊藤 揚荘		松尾 晃次	辻本 登志英	
		午後	中村 信男		松尾 晃次	岡 宏保		
	内科3(再診)	午前		辻本 登志英	中村(第1・3・5)		加藤 寛正	
		午後		溝口(第1)	中村信男	山崎 幸茂 (診察は内科1使用)	加藤 寛正	
	内科4(再診)	午前		松本 潤	竹井 陽	谷口 友志		
		午後	松本 潤	木下 正博	山下 泰伸	竹井(14:30~)		
	内科5(再診)	午前	荒居 (外科/鼠径ヘルニア外来)		谷口 友志	伊藤 揚荘		
		午後	國部(禁煙外来)		谷口 友志	松本 潤	谷口 友志	
外科／消化器外科		午前	芝本 純	山里 有三	荒居 (外科/鼠径ヘルニア外来)	山里 有三	芝本 純	当番医
脳神経外科		午前				中村 善也		
		午後				中北(予約)		
整形外科		午前	小山 あかね	小山 あかね	担当医	小山 あかね	岩切 健太郎	
		午前			小池(予約制)			
装具外来		午前		装具外来		装具外来		
小児科		午前	古久保 和洋	古久保 和洋	古久保 和洋	古久保 和洋	古久保 和洋	古久保 和洋
		午後	古久保 和洋	古久保 和洋		古久保 和洋	古久保 和洋	
婦人科		午前	國部 久也	國部 久也	國部 久也			
		午後	國部 久也	國部 久也	國部 久也	國部 久也	國部 久也	
乳腺外科		午前	粉川 庸三	粉川 庸三		粉川 庸三	粉川 庸三	
皮膚科		午前						県立医大
		午後		県立医大				
眼 科		午後			当番医		当番医	
耳鼻咽喉科		午後				県立医大(予約制のときあり)		保富(第1・3)予約制
循環器外来(予約)		午前	岡 宏保		中村信(第1・3・5)			
		午後	中村 信男	溝口(第1)	中村 信男	岡 宏保		
呼吸器外来					松尾 晃次(午後)	松尾 晃次(午前)		
泌尿器科		午前	木村 泰典	木村 泰典	川嶋 秀紀	木村 泰典	木村 泰典	当番医
		午後	川嶋 秀紀		木村 泰典			
泌尿器科(専門外来)		午後		川嶋 秀紀 (泌尿器科相談外来)			川嶋 秀紀 (神経因性膀胱脱女性泌尿器科)	
脳神経内科(予約制)		午前						中崎 繁明
		午後		石口 宏		小口 健	安井 昌彰	
通院リハビリテーション外来		午前	谷口 友志	谷口 友志	担当医	担当医	岡 宏保	
		午後	岡／國部	谷口／岡	谷口 友志	國部 久也	岡／松尾	
リウマチ専門外来		午前		小池 達也		小池 達也		
膠原病・糖尿病専門外来		午前		伊藤 揚荘		伊藤 揚荘		
消化器専門外来		午前	荒居 琢磨	加藤 寛正	谷口 友志	谷口 友志	加藤 寛正	
		午後			谷口／山下		谷口／加藤	
循環器・高血圧専門外来		午前						担当医(月2回)

※火曜日午後 内科3診/循環器外来…第1(溝口裕規)
 ※土曜日午前 耳鼻咽喉科…第1・3(保富 宗城)予約制

※水・金曜日午後 眼科…予約外は先着5名までとさせていただきます。
 ※診療担当医が変更になることがございます。ご了承ください。

2020.1~

	受付時間	診療時間	●休診 土曜日午後・日祝
午前(月~土)	8:30~11:30	9:00~12:00	
午後(月~金)	13:30~16:30	14:00~17:00	
循環器外来(月 第2・4水)	14:00~16:30	14:30~17:00	
循環器外来 第1・3・5(水)	8:30~11:00	9:00~11:30	
循環器外来(火)	13:30~16:00	14:00~16:30	
皮膚科(火)	(予約制)	13:30~15:30	
眼科(水)	13:00~15:45	13:30~16:00	
耳鼻咽喉科(木)	13:30~15:30	14:00~16:30	
耳鼻咽喉科 第1・3(土)	14:00~16:30	14:30~17:00	
循環器・高血圧専門外来(土)	(予約制)	9:00~12:00	
	(予約制)	9:00~12:00	

●休診 土曜日午後・日祝
 ※診療時間外(夜間・休日)に具合が悪くなったときは、日時に関係なく受付しますので、白浜はまゆう病院へ電話でご連絡ください。



公益財団法人白浜医療福祉財団

白浜はまゆう病院 ●理事長 井潤 誠 ●院長 谷口 友志

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1447番地

TEL.0739(43)6200 FAX.0739(43)7891 【E-mail】info@hamayu-hp.or.jp 【URL】http://www.hamayu-hp.or.jp/

- 西 富 田 ク リ ニ ッ ク
- 鮎 川 診 療 所
- 日 置 診 療 所
- 三 舞 診 療 所
- 川 添 診 療 所
- 訪問看護ステーションたんぽぽ
- 通所リハビリテーションセンター

- 〒649-2334 和歌山県西牟婁郡白浜町才野1番地
- 〒646-1101 和歌山県田辺市鮎川583番地の3
- 〒649-2511 和歌山県西牟婁郡白浜町日置206番地の1
- 〒649-2532 和歌山県西牟婁郡白浜町安居3番地
- 〒646-0301 和歌山県西牟婁郡白浜町市鹿野1103番地
- 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1447番地
- 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町1447番地

- TEL.0739(45)3600 FAX.0739(45)3678
- TEL.0739(48)0031 FAX.0739(48)1005
- TEL.0739(52)2002 FAX.0739(52)4192
- TEL.0739(53)0001 FAX.0739(53)0001
- TEL.0739(54)0037 FAX.0739(54)0037
- TEL.0739(43)5226 FAX.0739(43)0682
- TEL.0739(43)8190 FAX.0739(43)8189